

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年 10月 10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105123
法人名	有限会社 ライフサポート
事業所名	グループホーム 福平
所在地	鹿児島市下福元町7505番地 (電話) 099-210-8550
自己評価作成日	平成 23年 7月 25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成23年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、鹿児島市郊外の静かな住宅街にあり、庭には、青々とした芝生が広がり、また、利用者やボランティア、職員が協力して作っている菜園には、季節の野菜が実り、収穫した野菜が食卓に上がっている。
利用者の笑顔を大切にしたいと考え、月1回外食の機会をもったり、利用者の家族の理解と同意を得て、年1回1泊旅行をユニットごとに行ったりと、楽しみごとを作っている。
ホームの理念として「地域の中でその人らしく安心して暮らし続ける。」を掲げ、サブ理念を「ゆっくり、一緒に、楽しく」と決めて、利用者の生活の場が楽しく、本人らしく暮らしてもらえるように、ゆったりと笑顔で明るく接することを職員は心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「地域の中で、その人らしく、安心して暮らし続ける」は、日ごろの介護や経験 その人の思いを考えて掲げられたものであり、毎日の生活に直結したものとなっている。さらに、サブ理念で確実にその人らしさを追求したものとなっており、毎日の関わりの中で実践している。

外出については、月1回外食する機会を設けたり、年に1回一泊旅行を計画するなどして、入居者とスタッフ、家族との交流の機会を作っている。

災害対策については、夜間を想定した火災訓練や地震訓練等も行ない、万が一に備えて日々対応できるよう努めている。また、スプリンクラーも設置し、更なる安全の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和し念頭に入れ、一人ひとりのその人らしい生活を把握し、実践に向けて取り組んでいる。	理念については職員間で話し合い、「地域の中でその人らしく…」と一人ひとりの幸せを念頭に置いた文言を考え、サブ理念「ゆっくり、一緒に、楽しく」も設定している。理念は玄関、事務所に掲示し、パンフレットにも明記している。職員は常に理念を意識し、その人らしいケアとは何かを考え、実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	散歩等外出時も積極的に挨拶を行うよう心掛けている。 年末の餅つきの際は、近隣の子供達が参加したり、今年度より町内会に加入し、各行事にも参加して交流を深めている。	今年度から町内会に加入し、地域の六月灯やふるさと祭り、運動会等に参加している。また、消防署のイベントに場所を提供するなど、地域に貢献し、積極的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	サマーボランティアを受け入れ地域の子供達に認知症について理解して貰えたらと考える。昨年は消防署のコンサートを施設の敷地で行い、利用者や地域の方々ともふれあう機会を持つことが出来た。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、民生委員、地域包括支援センター等に参加を願い、その時々課題点や問題点を提起して意見交換を行う会となっている。調剤薬局の管理薬剤師等も参加し多方面からの意見に新しい気づきがある。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、家族会代表・町内会長・民生委員・地域包括センター・管理者・職員等の参加があり、それぞれの立場からの意見を出し合い、有意義な会となっている。外部評価結果の課題点は、スタッフ会議や朝礼で確認し、改善策を話し合い、報告している。また、評価結果はコピーして入居者の家族に郵送している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	実務者研修・リーダー研修の他施設実習の受入をする事により行政の担当者と意見交換等をする良い機会となっている。	行政の窓口へは申請等の機会に、また、実務者研修・リーダー研修の受入れ施設として協力したり、介護相談員の受入を行うなど積極的に行政と協力関係を築いている。その他、生活保護担当者や地域包括センターと連絡を密にし、連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を行い「禁止の対象となる具体的な行為」を繰り返し確認しあい、身体拘束のないケアに努めている。	理念の「その人らしく」を実践するにあたり、自然と身体拘束をしない環境になっている。また、定期的に研修を行い、職員間の共通理解も出来ている。事業所は日頃から施錠しておらず、スタッフは常に利用者に気を配りながら見守っている。ご近所の方にも声をかけ理解と協力を求めており、外出者の情報をもらうなど地域との連携もとられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に勉強会を行い、身体的虐待だけでなく、ネグレスト・心理的虐待・経済的虐待についても学習しケアを行う側の士気を高めるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に成年後見人制度利用者も入居しておりました。今後、必要な方が入居されても、対応出来るように、経験を生かしたり、制度を勉強している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、契約書、重要事項説明書の内容を読みあげながら説明を行い、不安、疑問点には、その都度質問を受け、確認しながら説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会簿に日々のケアの中で利用者の意見、不満、苦情等を引き出せる環境作りを心掛けている。	意見箱は設置してあるものの、なかなか意見をもらえないため、面会簿に記入してもらったり、職員が聴き取りを行っている。また、年1回家族会を開催し、意見・要望等を聴く機会にしている。出された意見は、速やかにスタッフ会議で全員で確認し、迅速に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は多忙な時でも、快く職員の意見に耳を傾け、解決に努めている。 日常的に職員からの意見を吸い上げ意見交換をやっており運営やケアに反映させている。	職員間および管理者の関係が良好で、日頃から意見を言いやすい環境ができており、検討課題が出てきたら早めの解決を図っている。管理者は日頃から職員の様子に気を配り、積極的に声をかけて、意見の吸い上げに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、多方面から職員個々の状況に気を配り職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新任採用時は、研修用ファイルを活用し、問題点が明確になるように努めている。「谷山地区グループホーム勉強会」に出席し勉強している。法人内外の研修にも積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>谷山地区グループホームは、同業者の情報交換、交流、勉強、相互訪問が行われたり、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初はどうしても家族、担当ケアマネ等からの相談が多いが、利用に至るまでに本人とも面談する機会を作り、本人自身が困っている事、不安な事をよく聴き受けとめるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が納得して安心できるよう、その都度、困っている事、不安な事を傾聴し受けとめ、解決する様になるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と面談する中で、何が必要かを見極めて、様々な可能性を視野に入れ対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の生活暦や趣味を知り、日々の生活の中で一人ひとりの得意な事や好きな事を、日々の生活の中で活かせる様にし、自信を持って生活出来るような支援をする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に声を掛けたり、電話連絡等により、家族とコミュニケーションを図り、本人が安心して生活出来るように、思いを共有しながら、共に本人を支えていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体能力の低下により、馴染みの場への外出は厳しい時もあるが、馴染みの人と気軽に面会・外出が出来る雰囲気作りに努めている。	馴染みの床屋や墓参り等の希望はないか、本人の意向を聞き要望があれば対応している。作品作りの一環で絵手紙作成をしており、家族や知人等に宛てて送ることもあり、喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や認知症の程度等を考慮しながら座席も配慮し、利用者同士が優しく楽しく関わり合える生活の場である様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所の為、退居した利用者についても職員は家族と連絡を取り合ったり、面会に行ったりして本人・家族との関係を大切に保ち続けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生き方や趣味、やりたい事などを、本人・家族との会話の中や、生活の中から一人ひとりの思い(散歩、買い物、踊りたい、唄いたい等)意向の把握に努めている。	利用前の情報収集にセンター方式のアセスメント表を用い、思いや暮らし方の希望、意向を詳細に聴き取りを行っている。利用後も本人との意思疎通の中で、上手く把握できない場合は家族と面談したときや電話等で情報交換し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦を聞いたり、日々の生活を営む中で把握できる事もあるので、日常生活の細かな事も見逃さず情報収集する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティング、定期的なケース会議等により一人ひとりの心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し、月一回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の見直しや支援方法などについてカンファレンスを行い、本人・家族の希望、要望が反映されたプランになるように努めている。	月1回のスタッフ会議において、利用者全員についてモニタリングやケアプランの見直しの話し合いを行っている。更新時の他にも必要に応じて現状に即した介護計画を本人、家族の希望、要望も確認しながら随時作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は異変や気付きは細かく記録し、本人の言動についても具体的に記録するようにし、職員全員が情報共有し統一した支援が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院、通院等の外出支援等、本人・家族の要望に応じた柔軟な支援がなされるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々による、家庭菜園・日舞やゴスペルコンサートを行う事により、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医を優先し、合意の上でかかりつけ医と連携を取りながら支援している。受診時の状況を適切に把握する為「病院受診連絡表」を活用している。	かかりつけ医は、本人・家族の希望を大切に、決めて、決めている。受診の際は「病院受診連絡表」を活用し、かかりつけ医と情報交換を密にして、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師と、日々の状況の変化等連携を取りながら、日常の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は面会に行ったり、家族からの情報を得たり、直接担当医より情報を得たりしながら、早期退院に向けての取り組みをしている。リハビリ等についても進行状況の確認をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の対応について、本人・家族の意向を書面にて確認している。その方針は全員共有している。また、状況変化に応じて再確認するようにしている。	利用開始前に重要事項説明書で重度化や終末期についての説明を行い、本人・家族の同意を得ている。利用開始後も、必要に応じて家族と協議し、職員間での情報の共有を図っている。昨年は実際に看取りをしたケースもあり、事前によく話し合い、対応についての情報を共有していたため、職員、家族共に安心して取り組むことが出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習会を年1回実施し、実際に人工呼吸や異物除去法の訓練を行っている。また、連絡網やマニュアルを事務所の目に付きやすい所に設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、様々な状況を想定して消防署の指導・立会いで避難訓練を行っている。昨年スプリンクラーを設置し、マニュアル作成し安全に避難誘導出来るように努めている。	夜間を想定した避難訓練では、実際に非常階段を使うなど実戦しながらに訓練している。訓練には地域住民の参加はなかったが、今年から町内会に加入したので、回覧板等で参加を呼び掛ける予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃一人ひとりを大切にする、言葉掛けや介護方法を職員と話し合い、意識の向上を図っている。また、職員はよく理解して対応している。	理念の「その人らしく」のケアを常に心がけている。一人ひとりを尊重する言葉掛けや介護方法を職員で話し合ったり、接遇研修を通じて、意識の向上を図り、実践につなげている。研修は職員が当番制で担当者となりテーマを設定し、より身近で実践的なものとなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、常に本人がどのように生きたいのかを探りつつ、本人の思いを大切に、不安なく心豊かに暮らせる様、家族の思いも尊重しつつ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調に配慮しながら、起床時間、個室での食事、買い物、散歩、昼寝、掃除、入浴等日々その人らしい暮らしが出来るように努めながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好む色や服を理解し、心地よくおしゃれが出来るように努めている。外出が困難な方も、美容師さんに来所して頂き、その人らしい身だしなみに心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えて、メニューに好みの意見を取り入れるようにしている。本人の力量に応じて一緒に食事の準備を行い、楽しく会話をしながら同じものを食べている。	嗜好調査をしたり、会話の中から好みを聞いたりして、献立を立てている。時には旬の物や希望で予定を変更して提供することもある。また菜園があり、職員と利用者と共に収穫作業や、調理作業を行うこともある。会話を楽しみながら、職員も一緒に食事をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け献立作りに努めている。水分が不足がちな方にも工夫して摂取確保に努めている。食事量も一人ひとりにあわせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きを行っている。歯科医師による口腔チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン習慣を理解し、適切に声掛け介助することにより、排泄の失敗やおむつの使用を減らせるように努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握するため、全員の排泄チェック表を作成、活用していた。現在は必要な利用者のみ実施している。居室にポータブルトイレはおらず、適切なトイレ誘導の声掛けや介助で、おむつの使用を減らし、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時にはホットミルク、毎日の食事、おやつにも繊維性の食物を多めに摂取するなど工夫している。排便の周期をチェックし水分摂取、散歩や腹部マッサージ等も随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一番風呂に入りたい人、午後から入りたい人、一人ひとりの希望やタイミングに応じて楽しく入浴出来るように支援している。	入浴時間は特に設けておらず、入浴したい時にできるようにしている。入浴しながら声かけ、促し、自らが入浴したいと感じた時に、入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に居るのが不安な人、寝付けない人等様々だが、不眠時はホットミルクを飲んでもらったり、話をしたりして、安心して休息、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局で個別セットにしてもらい、間違いなく投薬できるようにしている。又職員は薬の目的や副作用、用法について理解し、漏れが無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や日々の単純な作業等で一人ひとりに出来ることや得意なことを分担して、ホームの一員としての役割や自信を持って生活出来る様支援する。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ホームの庭が広く芝生が敷き詰められ、季節の花等が植えられており、戸外の陽ざしや風を感じる事が出来るように、中庭の散歩を日課にしている。月に1回外食に出掛けたり、年に1回1泊旅行に出掛けたりしている。	庭は広々としており、芝生が敷き詰められ、普段から自由に戸外で外気浴ができる。桜の木もあるため、毎年家族にも参加してもらい花見を楽しんでいる。また、年1回の1泊旅行や月1回の外食も計画し、屋外での楽しみを提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や、力量に応じてお金を所持し、必要に応じて一緒に買い物に出掛けたり、欲しい物を頼まれて買って来たりしながらお金を所持したり使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に、電話をしたい時は、電話が出来るように支援している。また、家族と手紙のやり取りを続けている方には、職員が預かりポストに投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや暖簾を有効に使い、また、庭や畑から季節の花などを摘みテーブルや玄関に飾り、季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間のスペースは十分に広く、畳もあり、自由に思い思いにくつろぐことが出来る。トイレや浴室は広く、手すりなども使いやすい位置に取り付けられ、使い勝手を考慮した造りとなっている。また、居間や廊下には、近々参加する予定のふるさと祭りに合わせた飾り付けが施され、利用者、職員の気分を盛り上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテーブル、和室を設置し気の合った利用者同士思い思いに過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの備品であるベットやタンスの外、自宅から持って来た馴染みの身の回りの品々に加えて、大切な家族の写真や思い出の品など一人ひとりの個性ある居室になっている。	ベッドとタンスは事業所の準備したものであるが、身体の状態や希望で介護用ベッドの利用も可能である。本人・家族の希望で家具の配置を自由に変えられ、馴染みの身の回りの物を持ち込んでもらい、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な所に手すりを設置し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。トイレのライトは、センサー式にしており、扉は引き戸で無理なく開閉出来るように工夫されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者が当たり前に暮らしてきた生活を、可能な限り継続出来るような理念を作り、職員は毎朝理念を唱和し、その人らしい生活を把握して実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今回町内会にも加入し、地域の方々との交流を深め、行事等にも参加し、日々の生活においても積極的に挨拶をしたり施設の行事へのお誘いの声かけをし連携をとっている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	サマーボランティアの受け入れ、日本舞踊観賞会や講演会の際は地域の方へ声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、利用者の家族、地域の住民の方々に参加して頂き、意見交換を行う会となっている。また、調剤薬局から管理薬剤師の方も参加して頂き、意見に新しい気付きがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	実務者研修・リーダー研修の他施設実習の受け入れ等を行うことにより、協力関係を築くようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束委員会を行い、身体拘束とは何かを学び、職員全員が理解するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い身体的虐待や心理的虐待・ネグレスト等を学び、事業所内で虐待が見過ごされないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について学び、必要な方が入居されても対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に、契約書、重要事項説明書の内容を読みあげながら説明を行い、不安、疑問点には、その都度、確認しながら説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族の意見、苦情、不満が書き易いように、玄関に意見箱を設置したり、面会簿にメモ欄を設けている。又、家族の面会時に職員が声を掛け意見、要望を聞き、運営に反映させている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営者や管理者は多忙な時でも、快く職員の意見に耳を傾け、解決に努めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は多方面から、職員個々の状況に気を配り、職場環境や条件の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日々の生活の流れの中で実施研修をしている。</p> <p>「谷山地区グループホーム勉強会」に出席し勉強している。法人内外の研修案内を回覧して、積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>谷山地区グループホームは、同業者の情報交換、交流、勉強、相互訪問が行われたり、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初は家族、担当ケアマネ等からの相談が多いが、利用に至るまでに本人とも面談する機会を作り、本人自身が困っている事、不安な事をよく聴き受け留めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が納得して安心できるよう、その都度、困っている事、不安な事を傾聴し受けとめるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人、家族に対して、何が必要なのか見極め、いろいろな可能性を視野に入れ対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の生活暦や趣味を知り、得意な事や好きな事を、日々の生活の中に取り入れ、常に人生の先輩である事を意識しながら学んだり、支えあったりしながら共に過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に声を掛けたり、電話連絡等により、家族とコミュニケーションを図り、本人が安心して生活できるように、思いを共有しながら、一緒に本人を支えて行けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体能力の低下により、馴染みの場への外出は厳しいが、馴染みの人と気軽に面会や外食が出来る雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格、認知症の程度等を考慮しながら、座席も配慮し、利用者同士がやさしく楽しく関わり合える生活の場になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への入所の為退所した利用者についても、病状を家族に確認したり、面会に行ったりして、利用者や家族との関係を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活や、趣味等を、本人、家族との会話の中や、生活の中から見つけ、その思い(散歩、買い物、踊りたい、唄いたい等)意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活暦を聞いたり、日常生活の中での会話や様子等で、情報収集をして見逃さないようにし、それまでの生活環境を大事にしたケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティングや、ケース会議等により一人ひとりの心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認し月1回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の評価・見直しについてカンファレンスを行い、本人・家族の希望、要望を反映したプランになるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は異変や気付いたことを細かく記録し、本人の言動についても具体的に記録して、職員全員が情報を共有し統一した支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院、通院等の外出支援等、ご本人ご家族の要望に応じた柔軟な支援がなされるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々による、日舞やゴスペルコンサート、防災訓練、栄養相談等を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を優先し、連携を取りながら支援している。受診時は状況を適切に把握するために「病院受診連絡表」を活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者をよく知る看護職員と日々の状況の変化等連携を取りながら、日常の健康管理を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した時は面会に行ったり、家族から情報を得たり、医療機関より情報を得たりしながら、早期退院できるように取り組んでいる。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化、終末期の付いて、本人、家族の意向を聞いており、その方針は全員共有している。また状況変化に応じて、再確認している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急処置の講習会を1年1回実施し、実際に人工呼吸や異物除去法の訓練を行っている。又連絡網やマニュアルを事務所の目の付きやすい所に設置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年二回、さまざまな状況を想定して実施しており、消防署立ち合いで指導も受けている。連絡網やマニュアルもあり、安全に避難誘導できるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃一人ひとりを大切にする、言葉掛けや介護方法を話し合い、意識の向上を図っており、理解して対応している。個人情報保護法や取り扱いについても周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や態度等でどのように生きたいかをさぐり、思いや希望を受け留められるようにしている。また、本人のペースで暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調に配慮しながら、起床時間、個室での食事、買い物、散歩、昼寝、掃除、入浴等日々その人らしい暮らしの支援がなされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好む色や服を理解し、心地よくおしゃれが出来るように努めている。外出が困難な方も、美容師さんに来所して頂き、その人らしい身だしなみに心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えて、好みの意見を取り入れるようにしている。本人の力量ににんじて一緒に菜園の収穫、食事準備を行い、楽しく会話をしながら同じものを食べている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については栄養士のアドバイスを受け、栄養バランス、摂取量を把握している。水分量についても、不足がちな方へは工夫して摂取確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きを行っている。歯科医師による口腔チェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン習慣を理解し、適切に声掛け介助することにより、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、布パンツで対応できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットミルク、毎日の食事、おやつにも繊維性の食物を多く摂取する工夫している。排便周期のチェック、水分、散歩、腹部マッサージ等随時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一番風呂に入りたい人、午後から入りたい人、一人ひとりの希望やタイミングに応じて楽しく入浴出来るように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人で居室に居るのが不安な人、なかなか寝付けない人、さまざまだが、不眠時はホットミルクを飲んだり、職員と会話をしたり、安心して休息、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局で個別にセットしてもらい、間違いのないようにしている。職員は薬の目的や副作用、用法について理解している。与薬表を利用し漏れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片づけ、日々の単純な作業等で一人ひとりに出来ることや得意なことを分担し、役割や自信を持って生活出来るように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	晴天の日は、ホームの庭が広く芝生が敷き詰められて、季節の花等植えられ、外の陽や風に触れることが出来るよう中庭の散歩を日課としている。1月に1回外食に行ったり、1年に1回一泊旅行に行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持し、一緒に買い物に出掛けたり、欲しい物を頼まれて買って来たりしながらお金を所持したり使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に電話をしたい時は、電話が出来るよう支援している。手紙のやり取りは現在行っていないが、季節ごとに絵手紙を書いてご家族に出すようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドアの音がしないように工夫し、西日が当たらないよう窓にカーテンがされ、共用空間には季節の花や人形等飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテーブル、和室を設置し気の合った利用者同士思い思いに過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、ベッド、ダンス備え付けてあり、自宅から馴染みの身の回り品や、家族の写真、人形等持ち込まれ、その人らしい個性のある部屋になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各箇所手すりが設置されており、全ての扉は引き戸で無理なく開閉出来るようになっている。トイレのライトは、センサー式にしており、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない